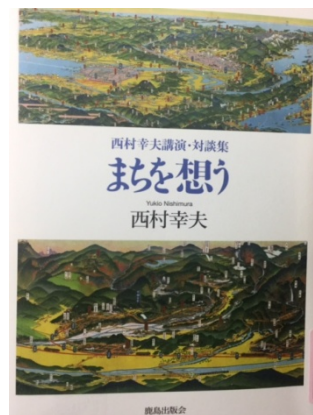


## まちを想う

写真は2006年12月18日、名古屋市立大人文社会学部棟201教室で開催された西村幸夫・東京大教授の講演会。テーマは「歴史・文化・自然を活かしたまちづくりと観光」であり、講演会を主催した私がコーディネーターを務めたこともあり、いまでも心に残る企画だ。西村さんのビジュアルで説得力のある講演を聴いて、ますます「観光まちづくり」に関心をもつようになった。そんな西村さんの標題の「講演・対談集」（鹿島出版会、2018年2月）を大阪市立大の図書館で見つけ、じっくりと読みすすんだ。講演を思い起こし、印象に残ったところを書きとめておく。



各地のまちと付き合ってきて、身に染みて思うのは、地域は多様であるが、それぞれに異なっていることにも理由があり、その背後には地域を造ってきた人々の意志や意図が込められていることである。だから地域はそれぞれに魅力的なのだ。そしてまた、地域は一見すると変化に乏しいようではあるが、数十年というスパンで見ると、確実に変化を遂げているということである。



同時に、魅力的な地域には魅力的な人が住んでいるということ、つまり、魅力的な人が魅力的な地域をつくりあげてきたのと同時に、魅力的な地域はその地域のことを大切に想う魅力的な人をつくりだしてきたという事実である。地域形成と人間形成の間にはのっぴきならない関係がある。また、固有の地域に深く沈潜することが、同時に個別の地域を超えた普遍性へつながるということも実感する。個々の地域の先に地域を超えた普遍的なものがひらけているのである。

まちづくりというのは、まず、そのまちの面白さを発見する「まち歩き」が重要ですが、まち歩きは「まちを読む」ことから始まります。このことは実は「本を読む」ことによく似ています。

今、私がやろうとしているのは、都市にはどんなまちにもそれなりの物語がありますから、その物語をクローズアップさせていく作業です。とても面白い物語があつてみんなが共有できることがわかれば、まちを見る目というか自分のまちを感じる目が違ってきます。これまでは、文化財がないといけないとか、町並みを中心に考えなければいけないとか、明確な手がかりがないとうまく進められませんでした。そうではないところでも、まちの見方を考え、示すことで面白いストーリーを描くことができると思います。それを次のステップとして取り組み始めました。

(2018年4月22日)